

事務事業名	消防協会南アルプス支部支援事業		所属部局	消防本部		単位番号	13010	
			所属課室	消防課		課長名	芦沢俊一	
	☐ 実施計画事業		所属担当	地域消防		担当者名	森本浩人	
基本政策	基本計画体系	I 情報と連携の都市づくり	予算科目	会計	名称	款	項	目
政策		06 安全な環境づくり	事業区分	01	一般	0	9	0
施策		08 防災体制の充実						
事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始年度 15 年度)		法令根拠	消防組織法 消防法				
事務事業の概要	事業の内容…期間限定複数年度事業は次年度以降3年間の計画内容も記載			事業費の主な内訳 (22年度)				
	消防協会南アルプス支部は、山梨県消防協会の下部組織で、消防団員741人で構成され、市からの交付金収入で運営している。この事業を南アルプス支部事務局として支援している。事業の内容①南アルプス支部としての各種事業、②支部表彰に関すること、③その他目的を達成するために必要な事項、支部の経理、支部役員の開催事務、事業の実施(事業費の支出事務)(事業費の内訳)			項目(細節) 金額(千円) 項目(細節) 金額(千円)				
				団体補助金 350				
				計 350				

1 現状把握 (DO)

(1) 事務事業の目的と指標

① 活動	22年度活動実績 ①親睦ソフトボール大会②風水害対策研修③水防訓練④支部演習⑤消防協会南アルプス支部運営事業 23年度活動予定 ①親睦ソフトボール大会②風水害対策研修③水防訓練④支部演習⑤消防協会南アルプス支部運営事業
② 対象 (この事務事業は誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等	消防団 消防団員
③ 意図 (この事務事業により対象をどのような状態にしていけるのか、どのように変えるのか)	消防に必要な知識、実践力を身につける 安心して消防団活動に取り組める。
④ 上位目的 (どのような結果に結び付けるのか)	災害の減少、地域住民の安心感をあたえる。

⑤ 活動指標 (事務事業の活動量を表す指標) 数字は記入しない	名称	単位
⇒	ソフトボール大会参加者数	人
	受賞者	人
	研修会参加者	人
⑥ 対象指標 (対象の大きさを表す指標) 数字は記入しない	名称	単位
⇒	消防分団数	団
	消防団員数	人
⑦ 成果指標 (対象における意図の達成度を表す指標) 数字は記入しない	名称	単位
⇒	知識が身についた消防団員の割合ー研修講演等に参加して理解した消防団員の割合	%
	福利厚生等の制度があり、安心して取り組めると答えた団員の割合	%
⑧ 上位成果指標 (結果の達成度を表す指標) 数字は記入しない	名称	単位
⇒	消防団員が居ることによって安心だと思っている地区住民の割合	%

(2) 事業費・指標の推移

単位	21年度 (決算・実績)	22年度 (決算・実績)	23年度 (予算・目標)	24年度 (次年度計画・目標)	25年度 (計画・目標)	26年度 (計画・目標)	最終 (トータルコスト・目標)
年間トータルコスト							
事業費							
財源内訳							
国庫支出金	千円						
県支出金	千円						
地方債	千円						
その他	千円						
一般財源	千円	404	350	350	350	350	
事業費計 (A)	千円	404	350	350	350	350	0
正規職員従事人数	人	3	3	3	3	3	
延べ業務時間	時間	300	300	300	300	300	
人件費計 (B)	千円	1,338	1,338	1,189	1,189	1,189	0
(A)+(B)	千円	1,742	1,688	1,539	1,539	1,539	0
活動指標	人	1,032.0	1,000.0	1,030.0	1,040.0	1,040.0	
対象指標	人	6.0	6.0	6.0	6.0	6.0	
成果指標	%	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0	
上位成果指標	%	60.0	60.0	60.0	60.0	60.0	

(3) この事務事業を取り巻く状況 (対象者・社会状況等) の変化、市民意見等

① この事務事業はいつ頃どんな経緯で開始されたのか?	昭和49年の消防本部の発足当時から開催されている。
② 事務事業を取り巻く状況は開始時または5年前と比べてどう変化しているか? また、今後の予測は?	消防団員が就職状況の多様化により減少している。今後団員の確保が急務となっている。
③ 事務事業に対して関係者 (市民、事業対象者、議会等) からどんな意見・要望が寄せられているか?	更なる市や消防本部の協力が必要と言う要望が寄せられている。

(4) 改革改善の取り組み状況

① 改革改善の取り組み実施は?	☒ 取り組みしている ⇒ [内容↓] ☐ 取り組みしていない ⇒ [理由↓]
② これまでの改革改善の取り組み状況・経過 (取り組みしていない場合はその理由)	以前、団員に「消防団活動に関するアンケート調査」を実施した。この内容を元に今後の団員の消防団活動に対して負担の軽減が出来るよう事業の改善を行っていく。
③ H 22年度に実施した改革改善の内容	消防団活動で事業内容を検討し時間短縮等を実施している。

事務事業名	消防協会南アルプス支部支援事業	所属部	消防本部	所属課	消防課
-------	-----------------	-----	------	-----	-----

2 評価 (Check1) 担当者による事後評価 (複数年度事業は途中評価)

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系の施策に結びつき、貢献しているか？意図が上位目的に結びついているか？	☐ 結びついていない (見直し余地がある) ⇒ [理由 ↓] ⇒ 3評価 (Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 結びついている ⇒ [理由 ↓] 山梨県消防協会の南アルプス支部として、防火思想の普及、消防活動の強化を図り、災害を防止し地域住民の安全に寄与している。
	② 公共関与の妥当性 この事務事業を税金を投入して市が行わなければならないのか？民間やNPOに委ねることは可能か？	☐ 見直し余地がある ⇒ [理由 ↓] ⇒ 3評価 (Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 妥当である ⇒ [理由 ↓] 民間やNPOに委ねることは難しい。
	③ 維持・継続の妥当性 現状の対象と意図、成果から考えて、この事務事業を将来にわたり、維持・継続していくことは妥当か？目的や事業の必要性を見直す余地はあるか？	☐ 見直し余地がある ⇒ [理由 ↓] ⇒ 3評価 (Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 適切である ⇒ [理由 ↓] 消防活動・災害活動に取り込める
有効性 評価	④ 成果の向上余地 事務事業のやり方・進め方を変えることで成果を向上させることはできるか？できない場合は何が原因でできないのか？	☐ 向上余地がある ⇒ [理由 ↓] ⇒ 3評価 (Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 向上余地がない ⇒ [理由 ↓] 事業を拡張することができない。
	⑤ 類似事業との統廃合・連携の可能性 類似した目的を持つ事務事業が他にあるか？類似事務事業がある場合、その事務事業との統合や連携を図ることはできるか？	☐ 類似事務事業がある ⇒ (類似する事務事業の名称を記入 ↓) ☐ 統合・連携ができる ⇒ [理由と具体案 ↓] ⇒ 3評価 (Check2)・4今後の方向性に反映 ☐ 統合・連携ができない ⇒ [理由 ↓] 独自の活動をしている為 ☒ 類似事務事業がない
	⑥ 休止・廃止した時の影響及び休止・廃止の可能性 この事務事業を休止・廃止した場合影響はあるか？また成果から考えて、休止・廃止することはできるか？	☐ 影響なし ☒ 影響あり ⇒ [理由と影響の内容 ↓] 消防活動が出来なくなる ☐ 休止・廃止ができる ☒ 休止・廃止できない ⇒ [理由 ↓] 廃止は出来ない
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費 (コスト) を削減できないか？ (仕様や工法の適正化、住民の協力など)	☐ 削減余地がある ⇒ [理由・具体案 ↓] ⇒ 3評価 (Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 削減余地がない ⇒ [理由 ↓] 増額を要望したい
	⑧ 人件費の削減余地 成果を下げずに人件費を削減できないか？ (事業のやり方の見直しによる業務時間の削減や臨時職員対応や外部委託による削減はできるか？)	☐ 削減余地がある ⇒ [理由・具体案 ↓] ⇒ 3評価 (Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 削減余地がない ⇒ [理由 ↓] 団員の増加を希望している
公平性 評価	⑨ 受益機会・受益者負担の適正化余地 事務事業の内容が一部の受益者に偏っていないか？受益者負担を見直す必要はないか？公平公正か？	☐ 見直し余地がある ⇒ [理由・具体案 ↓] ⇒ 3評価 (Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 公平・公正である ⇒ [理由 ↓] 市民の生活を守る為公平である

3 評価 (Check2) 担当課管理者による評価結果と総括

(1) 1次評価者としての評価結果	(2) 1次評価の総括 (事務事業を実施した結果を振り返り気づいたこと、課題、今後の方向性等について)
① 目的妥当性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ② 有効性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ③ 効率性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ④ 公平性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり	消防団員の親睦や各分団の協力体制の確立に寄与している。

4 今後の方向性 (事務事業担当課案) (PLAN)

(1) 今後の事務事業の方向性 (Check1の結果から定める)・・・複数選択可		(3) 改革・改善による方向性																						
☐ 廃止 (目的妥当性①、②、③の結果) ☐ 事業統合・連携 (有効性⑤の結果) ☐ 公平性改善 (公平性⑨の結果) ☐ 休止 (目的妥当性①、②、③の結果) ☐ 成果向上 (有効性④の結果) ☒ 現状維持 (全評価項目で適切) ☐ 必要性検討 (目的妥当性①、②、③の結果) ☐ コスト削減 (効率性⑦、⑧の結果)		<table><tr><th colspan="2" rowspan="2"></th><th colspan="3">コスト水準</th></tr><tr><th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr><tr><th rowspan="3">成果水準</th><th>向上</th><td>☐</td><td>☐</td><td>☐</td></tr><tr><th>維持</th><td>☐</td><td>☒</td><td></td></tr><tr><th>低下</th><td>☐</td><td></td><td></td></tr></table>				コスト水準			削減	維持	増加	成果水準	向上	☐	☐	☐	維持	☐	☒		低下	☐		
		コスト水準																						
		削減	維持	増加																				
成果水準	向上	☐	☐	☐																				
	維持	☐	☒																					
	低下	☐																						
(2) 改革改善案について		※ 廃止・休止の場合は記入不要																						
①多様化する災害、地域からの期待に応える為にも事業の縮小方向は災害に弱い街になってしまう恐れがある。東北地方太平洋沖地震の発災により、市民から消防団への期待も増大してきている中で、むしろ現状維持ではなくコスト面でも増加を望み、意味のある事業として改革を進める。																								
(4) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策		(5) 事務事業優先度評価結果																						
①団員の確保		成果優先度評価結果	⑫																					
②事業費の増加																								
③		コスト削減優先度評価結果	⑥																					